



2024年3月20日発行

拝啓

心地よい春の風が頬をなでる今日この頃、みなさまはいかがお過ごしでしょうか。

新しい出会いの季節です。是非図書館に足を運んで、今まで出会ったことのない本と出会ってみませんか？心躍る日々が、あなたを待っているかもしれません。

かしこ

-- 今月号のラインナップ --

Calendar

2024年4月～5月カレンダー

LiLian Special Info.

“Take Free！”

今月の一冊

『カラフル』

LiLian Interview

白川在先生（生活環境学部 環境デザイン学科）



2024年4月・5月 カレンダー

4月

◎ 8:30~20:00 ○ 9:00~16:30

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 1 ○ | 2 ○ | 3 ○ | 4 ○ | 5 ○ | 6 ○ |
| 7 休館 | 8 ○ | 9 ○ | 10 ○ | 11 ○ | 12 ○ | 13 ○ |
| 14 休館 | 15 ○ | 16 ○ | 17 ○ | 18 ○ | 19 ○ | 20 ○ |
| 21 休館 | 22 ○ | 23 ○ | 24 ○ | 25 ○ | 26 ○ | 27 ○ |
| 28 休館 | 29 休館 | 30 ○ | | | | |

5月

◎ 8:30~20:00 ○ 9:00~16:30

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | | 1 ○ | 2 ○ | 3 休館 | 4 休館 |
| 5 休館 | 6 休館 | 7 ○ | 8 ○ | 9 ○ | 10 ○ | 11 ○ |
| 12 休館 | 13 ○ | 14 ○ | 15 ○ | 16 ○ | 17 ○ | 18 ○ |
| 19 休館 | 20 ○ | 21 ○ | 22 ○ | 23 ○ | 24 ○ | 25 ○ |
| 26 休館 | 27 ○ | 28 ○ | 29 ○ | 30 ○ | 31 ○ | |

最新情報はHPを
ご確認ください →



LiLian Special Info.

“Take Free！”

私たち LiLian は、リブレターや館内展示を通じて、皆さんにおすすめの本を発信しています。実はリブレターの他にも、皆さんが読書をより楽しめるような情報源があります。そこで今月は、読書情報誌『読書のいづみ』をご紹介します！

読書が好きな人はもちろん、次に読む本が決まっていない人は必見ですよ～

『読書のいづみ』は、大学生協により年に4回発行されている季刊誌で、読書にまつわる豊富な情報が掲載されています。全国の大学・大学院生の有志が読者スタッフとして、誌面づくりに参加しているのが特徴です。



中面の見どころは、小説家や大学の先生などの著名人との対談コーナーです。バックナンバー(No.176)には辻村深月さんが登場しており、毎号読み応えがあります。他にもいろいろな特集や連載があり、思わず読んでみたくなるようなコメントと共にたくさんの本が紹介されています。

私は『読書のいづみ』に出会い、読書の素晴らしさ、本を介した人との交流の素晴らしさに何度も気付かされました。執筆者の主観を交えて綴られている言葉の多くに、心が揺さぶられる読み物だと思います。

『読書のいづみ』は、図書館入口付近、図書館1階の展示(LiLian 選書)コーナーで配布されています。皆さんの、本や人との新たな出会いの手助けとなれば幸いです。

全国大学生活協同組合会「季刊『読書のいづみ』」

<https://www.univcoop.or.jp/fresh/book/izumi/index.html>

(情報は全て、2024年2月現在のものです。)

(うまかほ)

* * * 今月の一冊 * * *

『カラフル』 森絵都／著

| |
|-------|
| 913.6 |
| Mo458 |
| 4 |

閲覧室2F(読書コーナー文庫)

「ある大きな過ち」を犯した主人公の魂が、やり直しのチャンスを得るために、一人の中学生三年生の少年の身体を借りて生活することになるお話です。

「家庭環境が悪い」「友達がない」など初めは身体の持ち主である少年の境遇に戸惑う主人公。しかし、だんだんと「自分」を受け入れ、得意なことを見つけたり友達が出来たり…。

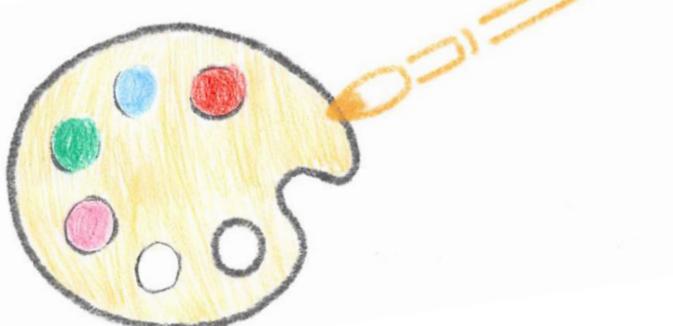
それを天使(?)のプラプラが時に辛辣に、時に厳しくガイドします。

主人公の犯した罪とは何だったのか？やり直しは成功できるのか？

その疑問が明かされる瞬間は必見です。

人生捨てたものじゃないなと少し心が明るくなるはずです。ぜひ読んでみてください。

(あお)





生活環境学部 環境デザイン学科

白川在 先生



1. お休みの日は何をすることが多いですか？

休みの日は子どもと遊ぶことが多いです。一緒にサッカーをしたり、砂場遊びをしたり、ポケモンカードで遊んだりします。

大学教員だけでなく設計事務所の仕事もしているため、様々なことに携わり、いろいろ転々としています。

仕事が好きで、ストレスを感じることが少ないので、仕事を考えて過ごしていることが多いです。



2. 建築分野に興味を持ったのはいつ頃でしたか？

中学生の頃で、「A列車で行こう」というゲームがきっかけです。鉄道系のゲームで、ビルを建ててスキー場やゴルフ場を併設させたり、近くに駅を設けたり、工夫をして利益をあげるといった具合に進めていきます。まちづくりのゲームで風景のグラフィックがきれいだったことが印象的でした。建物の高さや延床面積まで考慮するという少しマニアックな感じでしたが、このゲームを通して、まちづくりや都市計画に興味を持ちました。

また、油絵をやっていた母が制作に没頭している姿が魅力的で、美術にも興味を持ちました。もともと理系で学んでいたこと、美術に興味を持ったことなどが影響して建築分野を選びました。

3. 建築分野の魅力や面白さを教えてください。

建築分野の魅力は「絶対に一人ではできない」という点です。建物を設計する際に、まずクライアントの要望をきいて、次に施工者にその要望を説明してお願いをする、構造・設備の協力者や役所の人など様々な人の意見を行ったり来たりしながら、最終的に一つにまとめて建築物はできあがります。建築分野の面白さはそこにあると思います。人ととの意見や状況の調整をすることが多いですが、その中で人の意見を変えながら進めていくことが楽しみの一つでもあります。

また、提案を考えるときは、先入観を消すことでアイデアに違いが出ます。案を出すときは考えながら時間をおいて、一気に書き出すことが多いです。

4. 今まで見た中で印象に残っている建築物は何ですか？



2つあります。1つ目は「せんだいメディアテーク」です。設計は建築家の伊東豊雄さんです。この建物は図書館で、室内の柱の束が透けていて、向こう側が見えるようになっていることが特徴です。これを見たときに支えているものがない不思議な感覚があり印象に残りました。

2つ目は「宮城県迫桜(はくおう)高等学校」です。設計は東京のシーラカンスという設計チームです。この建築物の特徴は、廊下の幅が通常より広いところです。学校の廊下は、教室移動などの通行で利用することが多いですが、この学校は廊下で本を読んだり勉強をしたり、人々のアクティビティを活発にしようとしています。教室もオープンな感じになっていて印象的でした。

5. 大学教員になるきっかけは何でしたか？



親戚に学校の先生が多かったことです。親が生徒に勉強を教えている姿を見て、自分も人に教えることが楽しくて好きだったので、教育関係に進みたいと思いました。大学のゼミの渡辺真理(まこと)先生が、プロフェッサー・アーキテクトとして、大学教員をしながら自分の設計事務所をやっていた様子を見て、これだ！と思い大学教員になりました。環境デザイン学科のような建築系の学科は、大学で教える内容と実務が近いため、プロフェッサー・アーキテクトの先生が比較的多いように感じます。

6. 金城生におすすめの本、先生の好きな本は何ですか？

『茶色のシマウマ、世界を変える』という小林りんさんの物語です。小林りんさんは非常にエネルギーッシュな方で、元手も何もないところから、軽井沢に日本初の全寮制のインターナショナル高校 ISAK をつくりました。この校舎もシーラカンスの設計です。お金を集めるためにプレゼンをして、人を説得して少しづつ気持ちをえていって、最終的に学校が完成しました。この本を読むとまた頑張ろうという気持ちになります。気に入った本は紙と電子の2冊買います。家では紙の本を読み、外では電子書籍を読むといった使い方をしています。小林さんのように行動的になるきっかけになればよいです。

7. 金城生に伝えたいことは何ですか？

金城生は真面目な印象を感じる一方で、もっと自分から動くとか自主性があると良いと思います。人は、教えてもらったことは忘れてしまいますが、自分から動いて得た情報は一生残ります。授業等ではなるべく教えないようにしているというか、学生が自分自身で学ぼうとする姿勢をサポートするようにしています。社会に出たときに一人で歩いて行けるように、受け身ではなく自分の意思を持って積極的に行動してほしいです。とにかく行動することで、自分の将来が開けてくると思います。

インタビューを終えて・・・



建築分野は本当に奥が深いものだと思いました。一つの建築物が出来上がるまでには、本当に多くの人たちが関わっていることを実感しました。様々な人たちの想いがかたちとして街の中や至る所に存在していると思うと、これから旅行をするときや街中を歩く時の視点が変わります。インタビューを通じて、本当に建築に関するお仕事が好きで楽しみながらされているということが伝わってきました。今回はインタビューを受けてくださいありがとうございました。

(まっちゃん)

* * * 紹介された本（金城学院大学図書館所蔵）* * *

『茶色のシマウマ、世界を変える』

請求記号：376.9/Ko12（閲覧室 2F）

